

# さんけん新聞

を  
NPO法人  
三段峡-太田川  
流域研究会  
(代表・本宮炎)

〒731-3813  
広島県山県郡  
安芸太田町  
柴木 1734  
☎090・  
3421・3046

## 一口メモ

▼猛暑のち渇水  
コロナ禍や災害通行止め  
で観光客が激減し、事業者は  
苦境に立たされていたが、今

年の三段峡は賑わった。探  
勝路では道を譲り合う光景  
も見られ、黒淵の渡舟は一  
方通行で混雑を回避した。  
ただ、猛暑の影響は三段峡

の紅葉にも表れていた。それ  
に気付いた人は少ないかも  
知れない。夏から秋にかけて  
極端に雨が少ない。渇水状態  
は深刻、来春が懸念される。

# 外国人観光客誘致へ一歩

## 三段峡-可部つなぐツアープランで視察

外国人旅行者を対象にしたプロモーションビデオの撮影が11月12日、三段峡と広島市安佐北区可部をつなぐ外国人向けツアープランの視察が17日、三段峡ホテルやLOUPE、三段峡内であった。インバウンドを取り込む三段峡観光の新たな一歩がスタートした。



本宮理事長(右)から三段峡の説明を聞くツアープランの関係者

プロモーションビデオ撮影  
ビデオ制作を主催したのは人材育成事業などを手掛ける、みらい株式会社(広島市)で、オーバーツーリズムの宮島や平和公園に加え、広島のもう一つの魅力である三段峡へ外国人観光客を誘致し、滞在時間の延長と活性化するのが狙い。

撮影したのは三段峡の縮景美を同社担当者に話して採用になった加計高校生の地域探求グループ「あきたん」が企画した水墨画体験、大正時代は着物で入映したのちになんだ着付け体験、LOUPEでの抹茶・煎茶体験の三シーン。さんけんはこれから、カルチャーツーリズムにも力を入れ、日本茶を商標登録しているセカンドグリップ(尾道市)などのアドバイスを受けながら進める。

サ社は観光向け投資を募る仕組みの構築を目指しており、これに関心を持った大戸オーナーがツアープランを提案した。視察コースは探勝路を外れ、瓢淵や鑿岩(くりいわ)を歩いた。サ社の太川康介さんは「生まれて初めての体験、海外の方も感動する」と話した。今後は、三段峡と可部をつなぐエリア観光の展開が期待される。

## 三段峡歩き歴史や自然学ぶ

### 学校間交流事業で豊平小の四十人

外国人向けツアープランの視察は、ホテルリッチ(安佐北区)の大戸由加オーナー兼支配人とネット広告やゲーム事業大手・サイバーエージェント(東京)の新規事業準備室の社員二人。

太田川流域振興交流会議主催の学校間交流事業が十一月十日、北広島町豊平小学校の三、四年生四十人が参加して三段峡で開かれた。プログラムは「西日本唯一の特別名勝に指定された

峡谷を歩こう」。午前は小林久哉副理事長から太田川の歴史や活用などを聞き、落ち葉を題材にして森の循環を考えた。午後は秋色に染まった正面口-梅崎間のトレッキングを楽しんだ。



オシドリなどを観察する参加者

## ヤマセミと魚類の現状確認

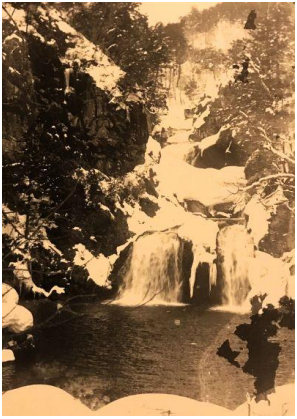
### 視察会・講演会に三十人が参加

さんけんがサントリーの助成事業で進めているヤマセミ保全活動の視察会と講演会が十一月二十六日、島根や山口からの参加を含め、三十人が集まって開かれた。テーマは「太田川水系のヤマセミと魚類の現状」。

柴木川ダムでの視察会ではヤマセミを確認できなかったが、さんけん会員の上野吉雄さんがカモ類などの生態を解説した。参加者が多く、会場をLOUPEから三段峡ホテルに変えた講演会で、水生生物を研究する内藤順一さんは「太田川の水は発電用に回され水量は少なく、魚道が遡上を妨げている」と話し、餌になる魚類の減少を報告した。上野さんは「ヤマセミが巣穴を掘る真砂土の崖が減っている。人工巣穴は期待できる」と説明した。参加者は川の環境と鳥類との関連に関心入っていた。

## セピア写真帖

(13)



雪に埋もれつつも豊富な水量が印象的な三ツ滝である。すぐ上流に一九五七年、樽床ダムが竣工すると、冬期はすべての水が発電用に正面口近くの柴木川第一発電所へ送られるようになり、このような雪景色

## 雪景色の三ツ滝 豊富な水量今はなく

は見られなくなった。撮影は八幡村の野田宣仁である。滝はダムに沈んだ樽床集落からほど近く、当時は生活道として、冬でもある程度は通行可能にしていたと思われるが、雪の急斜面を重いカメラと三脚を抱えて降りるのは大変な

労力だったに違いない。彼の情熱が感じられる。三ツ滝は三段峡の五大壮観であり、五大景観でもある。名勝指定のため国から派遣された漢詩人の国府犀東が二三年、三段峡を正式名称にするとともに、五大壮観を定めた。どちらも熊

南峰の提案を採用したものであり、犀東の権威を借りて南峰が自身の考えを実現させたと言える。五大壮観は猿飛、二段滝、三段滝、竜門、三ツ滝だが、戸河内町が戦後、竜門を黒淵に変え、五大景観とした。その後、五大壮観も黒淵とするなど混乱した。南峰がなぜ黒淵を外したか、いずれ考察したい。(松尾俊孝)

## 「さんけんの歩み」(2022年11月~2023年10月)

- 2022年11月 都立高校生修学旅行受け入れ▼広大小さんけん部が「紅葉」をたずねる会実施▼県主催の環境学習指導者専門研修実施
- 12月 ビジターセンター先進地視察▼ふるさと納税事業 133万円交付
- 1月 西善寺で「聞く会」開催▼広島デルタLCでさんけん活動PR
- 2月 DIYイベントでビジターセンター整備▼自然塾年間199人参加
- 3月 ビジターセンター名称LOUPE(るーぺ)に決定▼さんけんヤマセミ部発足へ、視察会実施▼Eバイクモニターツアー実施
- 4月 LOUPEの展示物、水槽設置など開設準備進む▼たたら製鉄勉強会実施▼サントリー愛鳥基金83万円交付▼スマイル視察会実施
- 5月 LOUPEオープン▼全国トキノキ学ネット設立準備会へ参加▼広大小さんけん部が学内の部に認定▼環境リーダー育成事業実施
- 6月 新聞協会賞「太田川 恵みと営み」写真展、講演会開催▼戸河内小で「三段峡」出張授業▼環境の日イベントへブース出展
- 7月 川遊び3ツアー親子77人参加▼変化アサガオ展、講演会開催▼安芸太田町のビジネス応援補助金100万円採択
- 8月 正面口-黒淵間2年ぶり開通▼鶴学園、地元小学校の95人が三段峡体験▼2基金で魚類調査▼パタゴニア広島店出張展示
- 9月 オオサンショウウオ調査で流出卵保護、飼育▼ドコモ市民活動助成事業で70万円交付▼九州のビジターセンター視察
- 10月 帝釈峡名勝指定100周年事業へ協力▼広大小が三段峡、深入山で「山の学校」開催▼地域おこし協力隊の井上嵩裕氏着任